

2014年3月期 決算説明会

日本通運株式会社
代表取締役社長 渡邊 健二

I. 経営状況	P. 1-
II. 外部環境の変化	P. 12
III. 経営計画の進捗状況	P. 13
IV. 2015年3月期の業績予想	P. 15-
V. 配当の状況	P. 23

2014年5月8日

I. 経営状況



A. 2014年3月期決算の概要

1) 概要 (連結)

(単位: 億円、%)

	2014/3期 実績 ①	2013/3期 実績 ②	増減額 (前年比) ③=①-②	増減率 (前年比) ④=③÷②× 100	通期予想 (10月31日発表) ⑤	差額 ⑥=①-⑤	率 ⑦=⑥÷⑤ ×100
売上高	17,524	16,133	1,391	8.6	16,900	624	3.7
営業利益	408	332	76	23.1	400	8	2.2
経常利益	501	415	86	20.9	480	21	4.5
当期 純利益	263	238	25	10.5	250	13	5.4

(億円未満切捨て)

2) 連結経営指標

(前期実績)

・売上高営業利益率	2.3%	(2.1%)
・売上高経常利益率	2.9%	(2.6%)
・ROE	5.2%	(4.8%)
・ROA	2.0%	(1.9%)

◇事業環境に関する認識と確認(経済環境)

株価の上昇や円安傾向が続くなか、企業の収益が改善し、設備投資に持ち直しの動きが見られたほか、年度末にかけて、消費税率引き上げ前の駆け込み需要が発生したことにより、生産や個人消費が増加するなど、景気は回復基調で推移。

◇事業環境に関する認識と確認(物流業界の状況)

国内貨物では、積合せの自動車運送の売上げが4月から前年対比でプラスに転じ、9月に入ってから、貸切りの自動車運送もプラスを維持するなど、自動車扱いが好調に推移。12月以降は、大型トラックを中心とした車両不足の影響により、お客様の貨物の一部が自動車扱いから鉄道取扱・内航海運へシフトしたことの影響も見られた一方、倉庫・付帯事業他といったロジスティクス業務の取扱いは、年間を通じて堅調に推移。

◇日本発着の輸出入貨物の環境

長らく低迷していた航空・輸出貨物の重量が第4四半期に入り、ようやく前年比プラスで推移するなど、持ち直しの動きが見られた。航空・輸入貨物においては、通関件数が11月に前年対比でプラスに転じて以降、好調を維持。海運・輸出貨物においては、一般商業貨物の回復は見られなかったものの、設備輸送が下支えをする状況が継続。海運・輸入貨物では、太陽光パネル関連の取扱いが、年間を通じて、堅調に推移。

I. 経営状況



B. 財政状態および退職給付会計基準の改正に伴う影響

1) 財政状態

(単位：億円)

	2014/3期	2013/3期	増減
総資産	13,774	12,476	1,298
自己資本	4,958	5,136	△178

2) 退職給付会計基準の改正に伴う影響 (2014年3月期)

(単位：億円、%、ポイント)

	改正後会計基準	従来会計基準	増減
総資産	13,774	13,532	242
負債	8,674	7,975	699
純資産	5,099	5,557	△457
自己資本比率	36.0	40.0	△4.0
自己資本利益率 (ROE)	5.2	5.0	0.2

◇財政状態

売上高の増加に伴う売掛金の増、日通・パナソニック ロジスティクス社を連結子会社としたことにより、総資産が対前年10.4%増加。

◇退職給付会計基準の改正に伴う影響

退職一時金等の積み立て不足分をオンバランスしたことの影響により、純資産と自己資本比率が低下。

I. 経営状況



C. キャッシュ・フローの実績

(単位：億円)

	2014/3期 実績 ①	2013/3期 実績 ②	増減額 (前年比) ③=①-②
営業活動による キャッシュ・フロー (A)	442	820	△378
投資活動による キャッシュ・フロー (B)	△581	△509	△71
フリー・キャッシュ・ フロー (A+B)	△139	310	△449
財務活動による キャッシュ・フロー (C)	58	△370	429
現金及び現金同等物に係る 換算差額 (D)	66	49	17
現金及び現金同等物の 増減額 (A+B+C+D)	△14	△11	△3
現金及び現金同等物の 期首残高	1,805	1,816	△11
現金及び現金同等物の 期末残高	1,790	1,805	△14

◇キャッシュ・フローの状況

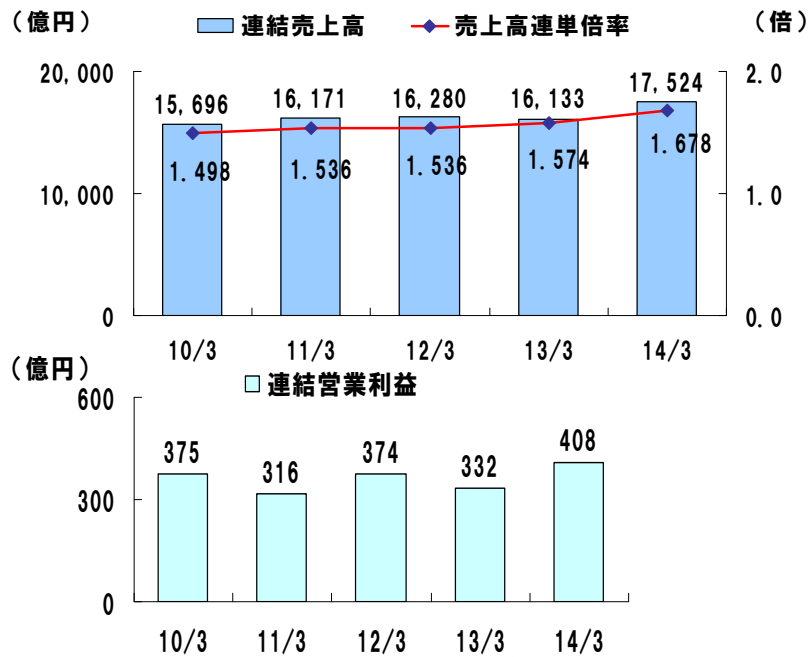
警備輸送のCSD業務において、前年度の末日が銀行休業日であったために、お客様からお預かりした現金に対する振込が出来ず、前年度末の流動負債の「預り金」が増加していたため、営業活動によるキャッシュ・フローが、対前年マイナス。

借入金の返済資金及びM&Aなどの投資資金として、新規借入を実施したため、財務活動によるキャッシュ・フローがプラス。

I. 経営状況



D. 直近5年間の売上高、営業利益の推移



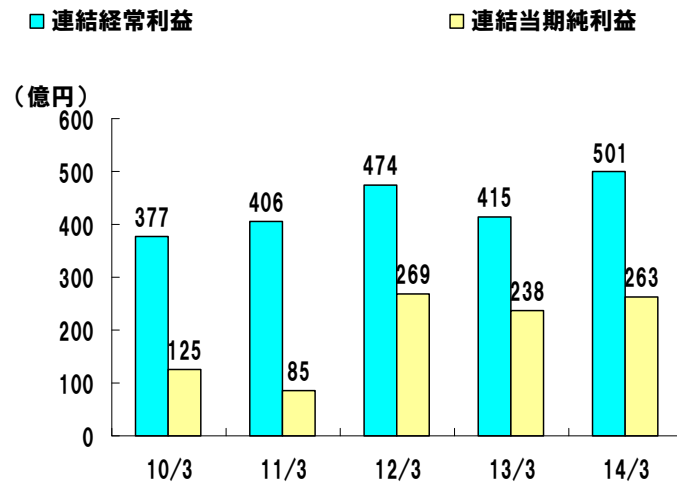
◇売上高の推移

対前年8.6%増加。企業物流全般の荷動きが堅調で、なかでも「複合」、「海運」の取扱いが増加したことに加え、M&A及び円安の影響を受けた「海外会社」の伸長が売上高を押し上げる要因となった。

◇営業利益の推移

対前年23.1%増加。上半期に前年対比で「複合」、「航空」、「海運」、「米州」が伸び、全体でも増益を確保。下半期には「東アジア」、「南アジア・オセアニア」、「販売」も増益に転じ、通期において全体で増益となった。

E. 直近5年間の経常利益と当期純利益の推移



◇経常利益、当期純利益の推移

「転進支援措置」の実施に伴う特別損失を第2四半期に計上したが、第3四半期以降の投資有価証券の売却益等でそれを補い、通期では増益を確保。

I. 経営状況



F. セグメント別状況

1) 複合事業

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(10/31発表)対比			
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	7,217	6,992	224	3.2	7,120	101.4	97
	セグメント利益	151	70	80	114.1	138	109.2	12
4Q単四半期	売上高	1,853	1,758	95	5.4	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	54	33	20	62.7	2.9 (1.9)		
	概況	・消費増税前の駆け込み需要により、鉄道、自動車運送の取扱いが活発化し、増収増益						

2) 警備輸送

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(10/31発表)対比			
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	546	588	△41	△7.1	548	99.7	△1
	セグメント利益	11	17	△6	△34.3	10	109.1	0
4Q単四半期	売上高	136	146	△9	△6.8	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	2	3	△1	△46.5	1.5 (2.6)		
	概況	・競争環境が厳しく、各種費用の削減に努めたが、減収減益						

※以下、セグメント毎の概況は、第4四半期単四半期の内容

◇複合事業

消費増税前の駆け込み需要の影響により、鉄道取扱、自動車運送の荷動きが活発化したほか、ロジスティクス業務を中心に、倉庫・付帯事業他も順調に推移。3月の引越商戦においては品質・信頼を維持することに重点を置いたため、前年と比べ、引越の取扱いを減らすこととなったが、複合事業全体では、増収増益。

◇警備輸送

厳しい競争環境のなかで、サービス単価の下落等、苦戦を強いられている状況が継続。採用の抑制等、各種の費用削減に努めたものの、減収減益。

I. 経営状況



F. セグメント別状況

3) 重量品建設

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(10/31発表)対比			
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	366	371	△5	△1.4	345	106.3	21
	セグメント利益	19	29	△10	△34.8	19	99.6	△0
4Q単四半期	売上高	89	86	2	3.4	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	4	4	0	13.9	5.2 (4.7)		
	概況	・ 海外工事や国内小型案件の積み重ねにより、増収増益						

※以下、セグメント毎の概況は、第4四半期単四半期の内容

◇重量品建設

韓国やマレーシアにおける海外工事が順調に売上げを伸ばしたほか、国内での小型案件を積み重ねた結果、増収増益。

I. 経営状況



F. セグメント別状況

4) 航空

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				業績予想(10/31発表)対比		
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	1,817	1,821	△4	△0.2	1,786	101.7	31
	セグメント利益	56	39	16	40.9	51	108.2	4
4Q単四半期	売上高	462	425	37	8.8	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	10	8	2	32.0	2.4 (1.9)		
	概況	・ 輸出が対前年プラスに転じたほか、輸入、国内貨物の取扱いも堅調に推移し、増収増益						

5) 海運

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				業績予想(10/31発表)対比		
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	1,317	1,242	75	6.0	1,303	101.1	14
	セグメント利益	51	46	4	9.5	54	93.4	△3
4Q単四半期	売上高	314	301	12	4.3	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	5	6	△1	△21.7	1.6 (2.1)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一般商業貨物の輸出が回復せず、設備輸送需要も一服 ・ 太陽光パネル関連の荷動きが鈍化し、海外引越も対前年マイナス ・ 内航海運の取扱いは堅調に推移するも、増収減益 						

※以下、セグメント毎の概況は、第4四半期単四半期の内容

◇航空

日本発輸出貨物の取扱い重量が、前年比プラス11.8%となり、輸出がようやく増収に転じた。比較的取扱いの多かった品目は、米州向けが自動車関連、欧州向けが医療機器及び自動車関連、アジア向けが電子機器及び半導体製造装置関連の貨物。輸入貨物、国内貨物の取扱いも堅調に推移し、増収増益。

◇海運

一般商業貨物の輸出取扱いが依然として回復せず、下支えをしてきた設備輸送関連も一服。輸入においても、好調だった太陽光パネル関連の荷動きがやや鈍化。内航海運の取扱いは堅調に推移したものの、商戦期における海外引越の取扱いが、前年を割り込んだことも影響し、増収減益。

I. 経営状況



F. セグメント別状況

6) 米州

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				業績予想(10/31発表)対比		
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	690	540	150	27.8	687	100.5	3
	セグメント利益	28	20	7	36.0	26	107.7	2
4Q単四半期	売上高	178	142	36	25.3	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	7	5	2	52.0	4.4 (3.7)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地通貨ベースでも、増収増益 ・ 自動車関連の海運・輸入、倉庫配送業務が堅調 						

7) 欧州

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				業績予想(10/31発表)対比		
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	727	442	285	64.6	688	105.8	39
	セグメント利益	7	15	△8	△53.4	7	94.8	△0
4Q単四半期	売上高	210	120	90	75.5	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	1	7	△5	△82.5	0.6 (6.0)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地通貨ベースでも、増収減益 ・ 航空・海運輸取出扱いが減少、倉庫配送業務、域内トラック輸送も苦戦 						

※以下、セグメント毎の概況は、第4四半期単四半期の内容
海外会社の第4四半期は、10-12月期

◇米州

為替の影響を除いた、現地通貨ベースにおいても、増収増益。自動車産業のお客様が、メキシコにおける生産能力を増強させており、メキシコでの海運・輸入が、堅調に推移。米国においても、自動車関連の倉庫配送業務やトラック輸送が好調を維持し、航空・輸出の取扱い減少分を補った。

◇欧州

円安の影響を除いた現地通貨ベースの実績でも、増収減益。買収したイタリア・フランコバーゴ社が収入面で大きく貢献したが、長引く景気低迷の影響を受け、航空・海運の輸取出扱いは、前年比マイナスで推移。倉庫配送業務や域内のトラック輸送についても、お客様の合理化の影響を受けて、苦戦をする状況が継続。

I. 経営状況



F. セグメント別状況

8) 東アジア

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				業績予想(10/31発表)対比		
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	921	688	233	33.9	892	103.3	29
	セグメント利益	12	13	△0	△7.2	21	57.1	△9
4Q単四半期	売上高	273	188	84	44.6	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	2	1	0	28.9	0.9 (1.0)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地通貨ベースでも、増収増益 ・ 自動車関連の中国国内輸送が、大幅に回復 ・ 中国・香港発の航空輸出、台湾の倉庫は配送業務が好調 						

9) 南アジア・オセアニア

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比				業績予想(10/31発表)対比		
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	513	442	70	16.0	516	99.5	△2
	セグメント利益	14	16	△2	△15.6	15	92.0	△1
4Q単四半期	売上高	137	107	29	27.8	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	4	1	2	142.9	3.3 (1.7)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地通貨ベースでも、増収増益 ・ 地域全体で航空輸出入の取扱いが増加、倉庫配送業務も堅調に推移 						

※以下、セグメント毎の概況は、第4四半期単四半期の内容
海外会社の第4四半期は、10-12月期

◇東アジア

為替の影響を除いた、現地通貨ベースにおいても、増収増益。前年の外交問題に端を發したお客様の生産、販売活動への影響の減少で、中国では自動車関連のお客様が増産を続けており、トラック輸送の取扱いが、前年比で大幅プラス。香港発の航空・輸出の取扱いも増加しており、台湾での倉庫配送業務の好調な推移も、収入の押し上げ要因となった。

◇南アジア・オセアニア

為替の影響を除いても、増収増益。南アジアは、「チャイナリスク」により、生産拠点を中国から分散させることを模索する、お客様の引き合いが最も強い地域のため、地域全体において、航空・輸出入の取扱いが増加してきている。フィリピン、インドネシアでは、倉庫配送業務も堅調に推移。

I. 経営状況



F. セグメント別状況

10) 販売

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(10/31発表)対比			
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	4,128	3,837	291	7.6	3,987	103.5	141
	セグメント利益	48	58	△9	△16.6	50	96.7	△1
4Q単四半期	売上高	1,134	1,008	125	12.4	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	14	8	6	74.3	1.3 (0.8)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 石油販売単価の上昇により、増収 ・ 輸出貨物の回復に伴うロジスティクス・サポート事業の増加により、増益 						

11) その他

(単位：億円、%)

	実績	前年同期対比			業績予想(10/31発表)対比			
		14/3期	13/3期	増減額	増減率	予想	進捗率	差額
通期	売上高	614	418	196	47.0	411	149.5	203
	セグメント利益	20	17	3	17.9	16	123.9	3
4Q単四半期	売上高	306	121	185	152.9	4Q単四半期営業利益率(前年同期)		
	セグメント利益	10	6	3	51.5	3.5 (5.8)		
	概況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4Qから日通・パナソニック ロジスティクスが連結子会社に 						

※以下、セグメント毎の概況は、第4四半期単四半期の内容

◇販売

収入面では、石油類の販売単価が上昇したこと、利益面では、輸出が回復してきたことに伴い、輸出梱包業務を含むロジスティクス・サポート事業の取扱いが増加したため、増収増益。

◇その他

日通・パナソニック ロジスティクス社が、当第4四半期から連結子会社となり、収入の増加に寄与し、増収増益。

II. 外部環境の変化



増減要素

変動要素	連結（通期）	参考
燃油費単価変動による影響	燃油費 21.2億円 (費用増)	(前年同期) 軽油 : 114.92円/ℓ (106.93円) ガソリン : 147.21円/ℓ (139.06円) 船舶重油 : 71.24円/ℓ (62.07円)
為替（円安）による影響	売上高 498.4億円 営業利益 16.8億円	年間平均為替レート(*) (前年同期) USD : 97.65円 (79.82円) EUR : 129.68円 (102.63円) HKD : 12.59円 (10.29円) RMB : 15.91円 (12.67円) 第4四半期平均為替レート (前年同期) USD : 100.46円 (81.17円) EUR : 136.69円 (105.25円) HKD : 12.96円 (10.47円) RMB : 16.52円 (13.02円)

(※) 年間平均為替レートは参考値。決算では四半期平均レートを各現地通貨ベースの四半期実績に適用している。

III. 経営計画の進捗状況



日通グループ経営計画 2015 -改革と躍進-

日通グループ企業理念・ビジョン

日通グループ経営計画2015

-改革と躍進-

2013年4月1日~2016年3月31日 (3ヵ年)

国際関連事業売上高比率
2016年3月期 40%

国内複合事業営業利益率
2016年3月期 3%

成長性 グローバルロジスティクス
事業の更なる拡大

収益性 国内事業の経営体質強化

成長性 グループ各社の多様性を
活かした事業拡大

社会性 CSR経営に基づく、
事業を通じた社会への貢献

III. 経営計画の進捗状況



日通グループ経営計画 2015 -改革と躍進- 基本戦略の進捗状況

基本戦略	項目	進捗状況
国内事業の経営体質強化	2016年3月期 国内複合事業営業利益率 3%	2014年3月期実績 2.1% (2014年3月期上半期実績 1.5%) (2013年3月期実績 1.0%)
グローバルロジスティクス 事業の更なる拡大	2016年3月期 国際関連事業売上高比率 40%	2014年3月期実績 32.5% (2013年3月期実績 29.7%)

◇国内複合事業営業利益率3%達成に向けて

「三大都市圏」での営業拡大をより強力に推進していくために、東京都江東区に当社では国内最大規模の物流施設「新東京物流センター」を建設予定(2016年4月竣工)。陸・海・空のあらゆる輸送モードに対応した、当社グループの総合力を活かす拠点として活用していく方針。

コストの削減については、これまで行ってきた各種のコスト管理の取組みを深度化させるとともに、「オペレーション支援システム」の導入など、更なる効率化の推進に努める。

◇国際関連事業売上高比率40%達成に向けて

本社、事業部、国内複合店、国内外のグループ会社が連携を密にし、海外から日本への輸入貨物の獲得にグループの総力を挙げて取り組み、日本国内における国際関連事業の拡大を推進。すでに中国・韓国へのゲートウェイである九州エリアにおいて、港湾地域と内陸の拠点を一元化する組織改正を行っており、経営資源のより効率的な運用と、ワンストップ営業体制の強化を図る取組みを開始。

海外においては、特にアジアをターゲットに定め、これまで以上に当社グループが未だ進出をしていないエリア及びレーンの開拓や新商品の開発、非日系顧客の獲得等に努める。その手段として、M&Aや戦略的業務提携についても、積極的に活用する。買収した米国・AGS社、香港・APC社、イタリア・フランコバーゴ社とのシナジー効果の生み出しにも注力。

IV. 2015年3月期の業績予想



A. 連結業績予想

(単位：億円、%)

	2015/3期予想			2014/3期実績			増減額 (増減率)		
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期	上半期	下半期	通期
売上高	9,000	9,700	18,700	8,357	9,167	17,524	642 (7.7)	532 (5.8)	1,175 (6.7)
営業利益	200	250	450	174	234	408	25 (14.6)	15 (6.8)	41 (10.1)
経常利益	240	290	530	223	277	501	16 (7.2)	12 (4.4)	28 (5.7)
当期純利益	160	140	300	74	189	263	85 (114.9)	△49 (△25.9)	36 (13.9)

◇業績見通し作成の前提となる経済環境

海外経済は、先進国を中心に景気回復の動きが続き、新興国においても先進国に牽引され、緩やかな成長が続くものと見ている。国内経済は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動減や個人消費の減退などが懸念されているものの、公共投資や設備投資の増加など、堅調な内需に支えられ、緩やかな回復基調で推移するものと見込む。

◇業績見通し作成の前提となる物流業界の状況

景気の動向に伴い、今後は緩やかな回復基調で推移すると見ている。国内貨物の輸送量は、前年度における需要増加の反動減はあるものの、ほぼ前年並みの水準となることを見込まれる一方、国際貨物では世界経済の回復に伴い、輸出を中心に増加するものと予測。

IV. 2015年3月期の業績予想



B. セグメント別状況

1) 複合事業

(単位：億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	15/3期	14/3期	増減額	増減率				
売上高	7,438	7,217	220	3.1	・ 営業力の強化、作業の効率化、販売料金の改定等により、増益を図る			
セグメント利益	179	151	28	18.5				
利益率	2.4	2.1						
上・下半期	上半期				下半期（ご参考）			
	15/3期	14/3期	増減額	増減率	15/3期	14/3期	増減額	増減率
売上高	3,639	3,532	106	3.0	3,799	3,684	114	3.1
セグメント利益	71	52	19	37.2	107	99	8	8.6
利益率	2.0	1.5			2.8	2.7		

2) 警備輸送

(単位：億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	15/3期	14/3期	増減額	増減率				
売上高	556	546	9	1.7	・ 金融機関の新規設定便業務取扱い等により、営業拡大を目指す			
セグメント利益	12	11	0	3.5				
利益率	2.2	2.2						
上・下半期	上半期				下半期（ご参考）			
	15/3期	14/3期	増減額	増減率	15/3期	14/3期	増減額	増減率
売上高	277	273	3	1.4	279	273	5	2.1
セグメント利益	5	4	0	2.8	7	6	0	4.0
利益率	1.8	1.8			2.6	2.5		

◇複合事業

「三大都市圏」での営業力強化に加え、「地方圏」においても拠点の統廃合を含め、地域経済・マーケットの特性に合わせた営業活動を推進。既存の業務についても、引き続きオペレーション効率の改善やお客様との料金改定等、採算性の向上に取り組み、通期で複合事業の営業利益率を、2.4%まで引き上げることを目論む。

◇警備輸送

お客様の合理化要請がほぼ一巡したことに加え、好調な業績に支えられた金融機関において再びアウトソーシングの流れが出てきており、新規の設定便業務も開始。

IV. 2015年3月期の業績予想



B. セグメント別状況

3) 重量品建設

(単位：億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	15/3期	14/3期	増減額	増減率				
売上高	412	366	45	12.4	・ 国内の風力発電、プラント工事のほか、海外大型工事の継続案件が見込まれる			
セグメント利益	21	19	1	9.8				
利益率	5.1	5.2						
上・下半期	上半期				下半期（ご参考）			
	15/3期	14/3期	増減額	増減率	15/3期	14/3期	増減額	増減率
売上高	207	181	25	14.1	205	185	19	10.7
セグメント利益	11	10	0	9.7	9	8	0	9.8
利益率	5.4	5.6			4.8	4.8		

◇重量品建設

国内においては、風力発電関連やプラントの更新・増強工事が見込まれているほか、海外においても大型の継続案件の取扱いあり。

IV. 2015年3月期の業績予想



B. セグメント別状況

4) 航空

(単位：億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	15/3期	14/3期	増減額	増減率				
売上高	1,862	1,817	44	2.5	・ 営業体制を強化し、シェア拡大に努める ・ BILT-2でのロジスティクス業務の拡大			
セグメント利益	60	56	4	8.0				
利益率	3.3	3.1						
上・下半期	上半期				下半期 (ご参考)			
	15/3期	14/3期	増減額	増減率	15/3期	14/3期	増減額	増減率
売上高	916	881	34	4.0	946	936	9	1.1
セグメント利益	27	24	3	13.1	33	31	1	4.1
利益率	3.0	2.8			3.5	3.4		

5) 海運

(単位：億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	15/3期	14/3期	増減額	増減率				
売上高	1,200	1,317	△117	△8.9	・ 一般商業貨物の輸出回復は見られないものの、設備輸送、輸入、内航は堅調に推移すると予想			
セグメント利益	45	51	△5	△11.7				
利益率	3.8	3.9						
上・下半期	上半期				下半期 (ご参考)			
	15/3期	14/3期	増減額	増減率	15/3期	14/3期	増減額	増減率
売上高	611	672	△61	△9.2	589	644	△55	△8.6
セグメント利益	30	33	△2	△8.5	14	17	△3	△17.8
利益率	5.0	5.0			2.5	2.8		

Copyright © 2014 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2014年3月期決算説明会資料

18

◇航空

日本発の輸出貨物が回復の兆しを見せているが、販売単価は低下傾向。仕入価格は、ほぼ横ばいで推移していることから、今期は営業体制をさらに強化し、シェアの拡大に努めるとともに、新商品であるドア・ツー・ドアのパッケージ商品の販売にも注力する。また、本年1月に稼動した千葉県市川市の新施設、BILT-2(ビルト・ツー)を中心に、ロジスティクス業務の取扱い拡大を図る。

◇海運

今期もお客様企業の海外進出に伴う設備輸送が継続し、輸出取扱いを一定程度、下支えすると見ているが、一般商業貨物の出荷が回復してくる手ごたえは、足元では感じられない。工場完成後の部材輸送の獲得や準大手顧客の深耕、新規顧客の開拓など、ターゲットを定めた営業拡大に取組む。内航海運は、輸送能力の増強やモーダルシフトの促進を背景に、堅調な推移を見込む。

IV. 2015年3月期の業績予想



B. セグメント別状況

6) 米州

(単位: 億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	15/3期	14/3期	増減額	増減率				
売上高	743	690	52	7.6	・ 米国の輸出入業務の回復、および、自動車関連取扱いが好調を維持することに期待 ・ 為替の影響による増収見込額 34億円			
セグメント利益	30	28	2	7.6				
利益率	4.1	4.1						
上・下半期	上半期				下半期 (ご参考)			
	15/3期	14/3期	増減額	増減率	15/3期	14/3期	増減額	増減率
売上高	368	335	32	9.7	375	355	19	5.6
セグメント利益	12	11	1	10.8	17	16	0	5.4
利益率	3.5	3.5			4.7	4.7		

7) 欧州

(単位: 億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	15/3期	14/3期	増減額	増減率				
売上高	834	727	106	14.6	・ アジア発航空輸入が回復傾向にあり、倉庫配送業務の改善も見込む ・ 為替の影響による増収見込額 62億円			
セグメント利益	10	7	3	50.0				
利益率	1.3	1.0						
上・下半期	上半期				下半期 (ご参考)			
	15/3期	14/3期	増減額	増減率	15/3期	14/3期	増減額	増減率
売上高	397	341	55	16.3	437	386	50	13.1
セグメント利益	6	3	2	59.2	4	3	1	39.4
利益率	1.5	1.1			1.1	0.9		

◇米州

米国の航空・輸出入の取扱いが戻ることを見込んでいるほか、メキシコにおいて、自動車産業のお客様の設備輸送に続き、生産のための部材輸送の獲得を目論む。米国内での倉庫配送業務は、好調を維持するものと見ている。

◇欧州

今期も厳しい状況が続くものと見ているが、欧州経済が回復に向かうなか、足元では航空・輸入の取扱いがアジア発を中心に増加傾向。苦戦をしている倉庫配送業務の改善などを見込む。

IV. 2015年3月期の業績予想



B. セグメント別状況

8) 東アジア

(単位：億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	15/3期	14/3期	増減額	増減率				
売上高	1,003	921	81	8.8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 欧米経済の緩やかな成長に伴う、需要回復を見込む ・ 為替の影響による増収見込額 50億円 			
セグメント利益	14	12	1	16.0				
利益率	1.4	1.3						
上・下半期	上半期				下半期（ご参考）			
	15/3期	14/3期	増減額	増減率	15/3期	14/3期	増減額	増減率
売上高	471	420	50	12.1	532	501	30	6.1
セグメント利益	8	6	1	16.4	6	5	0	15.5
利益率	1.7	1.7			1.2	1.1		

9) 南アジア・オセアニア

(単位：億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	15/3期	14/3期	増減額	増減率				
売上高	580	513	66	12.9	<ul style="list-style-type: none"> ・ お客様の引合い強く、輸出入、ロジスティクス業務の拡大を目指す ・ 為替の影響による増収見込額 6億円 			
セグメント利益	15	14	1	10.1				
利益率	2.7	2.8						
上・下半期	上半期				下半期（ご参考）			
	15/3期	14/3期	増減額	増減率	15/3期	14/3期	増減額	増減率
売上高	285	243	41	17.0	295	270	24	9.2
セグメント利益	6	5	1	20.1	9	8	0	3.8
利益率	2.4	2.3			3.1	3.2		

Copyright © 2014 NIPPON EXPRESS. All rights reserved.

2014年3月期決算説明会資料

20

◇東アジア

中国発の航空・輸出貨物の取扱いは、前年にあったスポット貨物の反動減で、足元では低調に推移しているものの、欧米経済の緩やかな成長に伴う、需要の回復を見込む。

自動車関連のお客様の増産に伴うトラック輸送の増加等、中国国内の物流需要への対応を、今後も強化する。

◇南アジア・オセアニア

お客様の引き合いの最も強い地域であり、実際のビジネスにつなげるべく取組みを進める。

足元ではタイ、フィリピンでの航空・輸出貨物や、シンガポールにおける重機建設の取扱いが堅調に推移。今後も輸出入の取扱いのみならず、ロジスティクス業務の強化・拡大を図りお客様の動向を注視しながら、拠点の陣容強化や新拠点の開設等必要な投資を行う。

IV. 2015年3月期の業績予想



B. セグメント別状況

10) 販売

(単位：億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	15/3期	14/3期	増減額	増減率				
売上高	4,225	4,128	96	2.3	・ 輸出の回復に伴い、ロジスティクス・サポート事業が堅調に推移するものと期待			
セグメント利益	54	48	6	12.8				
利益率	1.3	1.2						
上・下半期	上半期				下半期（ご参考）			
	15/3期	14/3期	増減額	増減率	15/3期	14/3期	増減額	増減率
売上高	2,031	1,903	127	6.7	2,194	2,224	△30	△1.4
セグメント利益	23	20	2	14.3	31	27	3	11.8
利益率	1.2	1.1			1.4	1.3		

11) その他

(単位：億円、%)

通期	今回予想	前年実績対比			概況			
	15/3期	14/3期	増減額	増減率				
売上高	1,394	614	779	126.8	・ 日通・パナソニックロジスティクスが収入増に寄与 ・ 日通NECロジスティクスは、3Qから連結子会社となる見込み			
セグメント利益	23	20	3	18.3				
利益率	1.7	3.3						
上・下半期	上半期				下半期（ご参考）			
	15/3期	14/3期	増減額	増減率	15/3期	14/3期	増減額	増減率
売上高	510	201	308	152.6	884	412	471	114.2
セグメント利益	6	6	0	2.1	17	13	3	25.8
利益率	1.3	3.2			2.0	3.4		

◇販売

輸出の回復に伴い、ロジスティクス・サポート事業が堅調に推移すると見ている。

◇その他

日通・パナソニックロジスティクス社が、年間を通じて収入の増加に寄与することに加え、日通NECロジスティクス社も、第3四半期から、連結子会社となる見込み。

IV. 2015年3月期の業績予想



C. 外部要因の前提

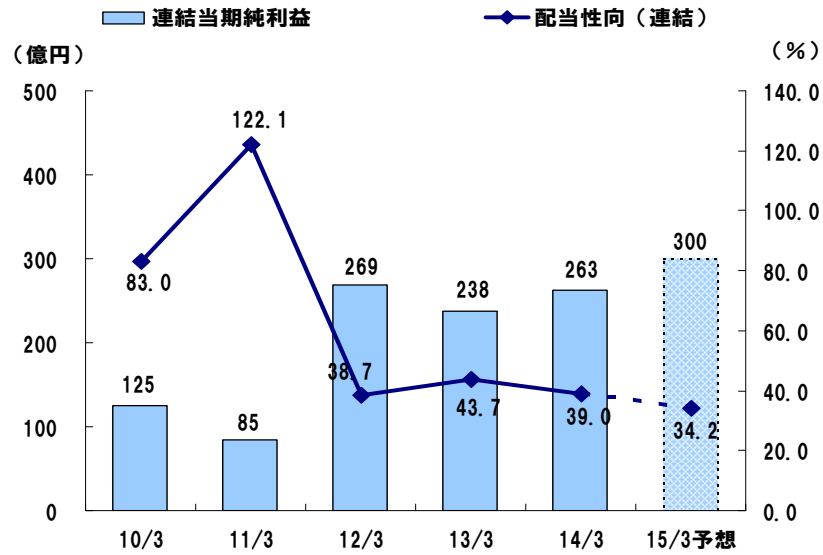
	連結業績への影響	前提条件
燃油費単価変動による影響	燃油費 4.9億円 (費用増)	(前期年間平均) 軽油 : 115.70円/ℓ (114.92円) ガソリン : 148.87円/ℓ (147.21円) 船舶重油 : 75.51円/ℓ (71.24円) 使用量は前年と同量と想定
為替による影響	売上高 +153億円 営業利益 +2.4億円	(前期年間平均 ^(※)) USD : 102.50円 (97.65円) EUR : 141.00円 (129.68円) HKD : 13.20円 (12.59円) RMB : 16.80円 (15.90円)

(※) 前提となる為替レート及び前年同期レートは参考値。決算では四半期平均レートを各現地四半期実績に適用している。

V. 配当の状況



配当性向の推移と予想





本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。

また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。

万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。